

単元1 「個別避難計画」の 取組内容と地域の 関わり



■ 目標

- 個別避難計画を含めた避難行動要支援者支援の取組について理解する
- 個別避難計画作成の制度概要と活用の仕方について理解する
- 個別避難計画に、地域がどう関わるかを理解する

■ 内容

1. 「地域住民向け「個別避難計画」作成研修」のふりかえりと支援するための取組
2. 「個別避難計画」の制度概要と作成の流れ
3. 個別避難計画への地域の関わり

01

「地域住民向け「個別避難計画」
基礎研修」のふりかえりと支援
するための取組

**「地域住民向け「個別避難計画」基礎研修」
で学んだことを
ふりかえりましょう！**

「自らの命は、自らが守る」意識と行動の必要

自らの命を守るためには…

居住する地域の
災害リスクを
把握する

= 自然災害リスクに応じた、
避難行動、避難先を知る

×

行政から出され
る避難情報等の
意味を理解する

= 避難のタイミングとその
きっかけとなる情報を知る

×

自らの判断で
避難できる
ようにする

= 避難しよう意識する、
主体的に行動できる

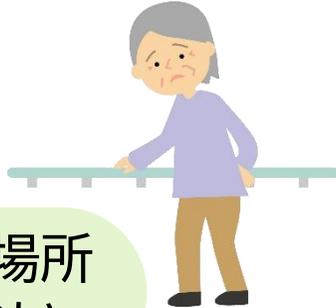
「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、
自らの判断で主体的な避難行動をとることが必要

避難行動要支援者が困ること

災害時に自らの力で避難することが困難な方のことを
「避難行動要支援者」という



自分の力で避難場所
まで移動できない



避難のための情報が
なかなかキャッチ
できない



避難した先で
生活できるか心配



避難が必要か
判断するのが難しい



命を守るために、誰かが支援する必要がある

個別避難計画とは

■ 個別避難計画とは

災害時に一人では避難することが困難な方（避難行動要支援者）が、いつ・どこに避難するか、誰が支援するか、避難するときどのような配慮が必要かなどをあらかじめ記載した避難計画。 避難行動要支援者ごとに作成する

個別避難計画と避難支援の関係(イメージ)



**要支援者を支援するための取組について
詳しく見ていきましょう**

これまでの全国の実施

東日本大震災の教訓を受け

避難行動要支援者名簿の作成・共有

ほぼ全ての市町村で作成完了

避難計画(支援プラン)の作成

一部の市町村で作成している

近年

災害発生!

これらの取組がうまく機能せず、
高齢者や障害のある方々が被害に遭われてしまった



地域の人や団体、福祉専門職等が連携して
避難行動や避難生活を支援するための「計画」を作る必要がある

災害対策基本法の改正

災害対策基本法が改正（2021年(令和3)年5月10日公布、同年5月20日施行）

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を**努力義務化**

※併せて、マイナンバー法を改正し、名簿・計画の作成等に当たりマイナンバーに紐づく情報を活用

5年程度(R3～7年度)で優先度の高い方の計画作成が完了するよう取り組むこと



地域のみなさんがスムーズに避難行動を支援できるように
「個別避難計画」の作成が **努力義務** となった

これまでの取組から変わること

要支援者一人ひとりの状態に合わせた個別避難計画を
みんなの力を合わせて作成することになった

※既に「支援プラン」「個別計画」等の名称で取り組んでいる市町もある



- 必要に応じて福祉専門職が関わる
- 必要に応じて調整会議を開いて、地域等の関係者が支援内容を話し合う



市町が「要支援者」、「地域」、「福祉専門職」と一緒に作成を進める

まとめ

- 地域には、自力での避難行動や避難生活が難しい方が生活しており、いのちを守るためには誰かが支援する必要がある
- 避難行動要支援者の避難支援等に係る取組は、これまでも進められてきているが、災害が起こるたびに被害が生じ、特に、高齢者や障害者に集中している実態がある
- 令和3年に災害対策基本法が改正され、「個別避難計画の作成」が市町村の努力義務となった
- 個別避難計画は、市町が「要支援者」、「地域」、「福祉専門職」と一緒に作成を進める

02

「個別避難計画」の 制度概要と作成の流れ

**「個別避難計画」は、
だれがどのようにして作成するのでしょうか？**

「個別避難計画」の対象者と支援者



支援等実施者(地域住民)

▼「個別避難計画」の対象者



避難行動要支援者(本人)

- 高齢者(要介護度 高)
- 障害者(重度)
- 難病患者 など

要支援者の避難を、支援者(地域)がスムーズに支援するために作成する

「個別避難計画」に記入・計画する内容



- 支援者はできるだけ複数人設定する
- 自治会などで、組織として避難支援を行う場合は、組織名を記載してもよい
- ただし、組織として避難支援の計画を作成し、訓練を行っておくことが重要

「誰が」「いつ」「何を」
するのかが
はっきりわかるね



個別避難計画（わたしの避難計画書）（例） 作成日：令和 年 月 日

<計画作成及び個人情報使用の同意について>
災害時に円滑な避難ができるよう個別避難計画を作成し、関係機関・者で共有することに同意します。
計画作成により必ず支援が受けられることを保証するものではなく、関係機関・者が法的な責任や義務を負うものではないことについて理解し、同意します。

■本人情報

ふりがな	血液型	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
氏名	生年 大 昭 平 令 年 月 日 歳		
住所	〒		
連絡先	自宅	FAX	携帯
心身の状況	<input type="checkbox"/> 要介護・要支援認定（ ） 番号 <input type="checkbox"/> 障害（ ） 番号 <input type="checkbox"/> 問題行動あり（ ） 番号 <input type="checkbox"/> 問題行動なし		
家族構成			
緊急連絡先（家族等）	氏名	住所	連絡先 番号
自治会等	名称	連絡先	氏名
医療機関	名称	連絡先	番号
かかりつけ	名称	連絡先	番号
福祉施設	名称	連絡先	番号

本人の情報

■わたしの避難行動

避難の必要性	大雨時・台風時		地震・津波時		
	土砂災害	洪水	高層	津波	建物倒壊・火災
	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
避難のタイミング	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 避難指示 <input type="checkbox"/> 津波警報	
避難先					
距離	km				
移動手段					
移動時間	分	分	分	分	分
準備	携行品	その他準備事項	準備にかかる時間		
			分		

本人の避難行動

■避難時に必要な支援

避難支援等実施者（必ず記入）	①	氏名	住所	連絡先
		関係	役割	
	②	氏名	住所	連絡先
		関係	役割	
	③	氏名	住所	連絡先
		関係	役割	

支援者の情報

支援内容

●自宅から避難先までの経路、その他支援に必要な事項を記載してください。

避難支援の内容

■避難生活時に必要な支援

○計画作成関係者

福祉専門職 氏名	民生委員 氏名	自治会等 氏名
----------	---------	---------

「個別避難計画」作成の方法

地域の状況や本人の心身の状況、居住実態等を考慮して作成方法を検討する

※検討方法は市町によって異なる

①市町が支援して作成

- 市町が本人の基礎情報を確認、関係者との事前調整を行う
- 市町、本人・家族、地域、福祉や医療関係者が話し合い、個別避難計画を作成

※①②の作成方法に優劣はありません。

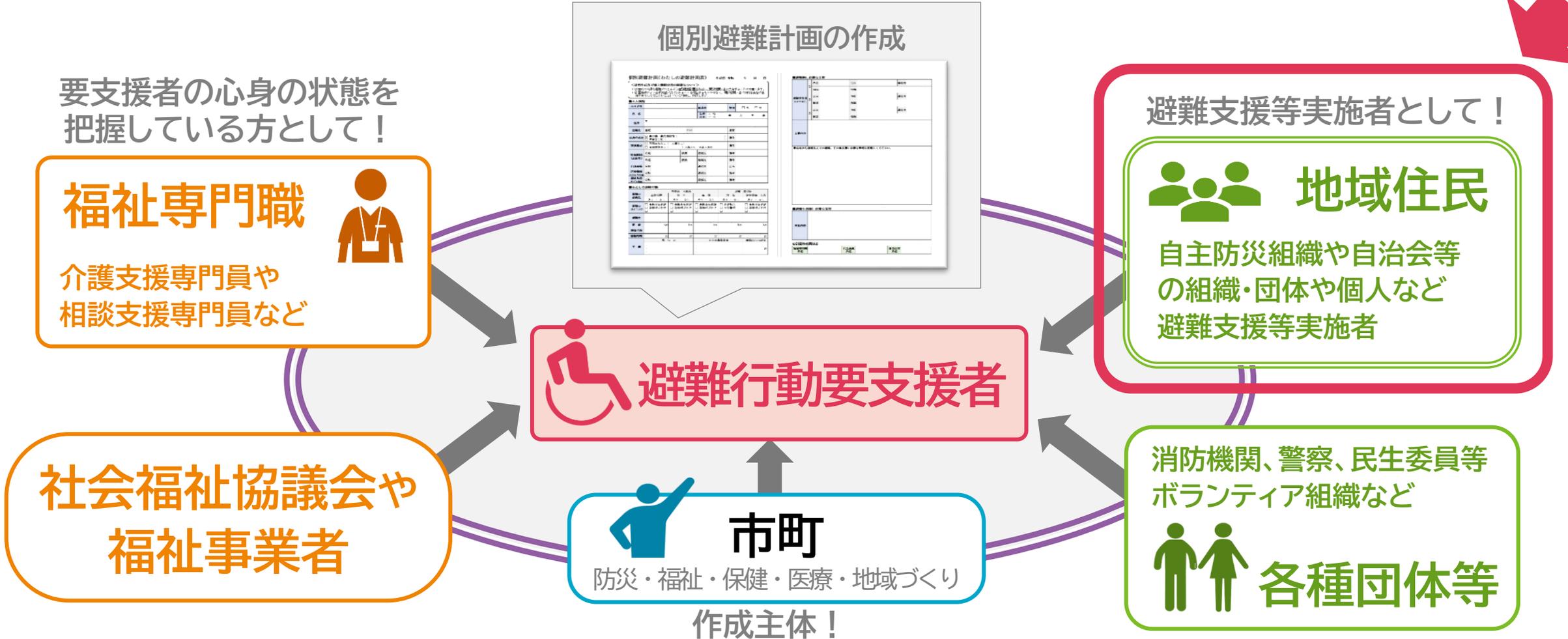
②本人・地域が記入して作成

- 本人・地域が話し合い、個別避難計画を作成
- 個別避難計画を市町に提出
- 市町が確認



この研修では、「市町が支援して作成」する流れについて学びましょう

市町が作成主体となる場合の作成等関係者



市町が作成の主体となり、地域のみなさん等関係者の協力を得て作成する

個別避難計画作成の流れ（基本）

市町による計画作成の準備、協力

①アセスメントの実施（基本事項の確認）

②協議を通じた計画(案)の作成

③実効性を確保する取り組みの実施

目標 実効性ある個別避難計画

個別避難計画の作成

<地域の関わりの主な範囲>

- ← ● 市町による聞き取りへの協力
- ← ● 地域調整会議への参加による計画づくり
- ← ● 訓練の実施
● 計画の実効性の確保・維持（更新）への協力

※地域の関わり方は、市町によって違います！

地域はどの段階にも関わる。この研修では **新しい取組を中心に説明** します

**作成した個別避難計画は
どう使われるのでしょうか？**

避難行動や避難生活への支援

災害発生
のおそれ

平常時

!

避難

災害発生

避難生活

復旧・復興

自助意識を育む！ 計画を作る！



自助の備え



計画作成！



個別避難計画の作成



避難訓練

命を守る！

災害関連死を防ぐ！



避難支援



計画活用！

避難先に
引き継ぐ



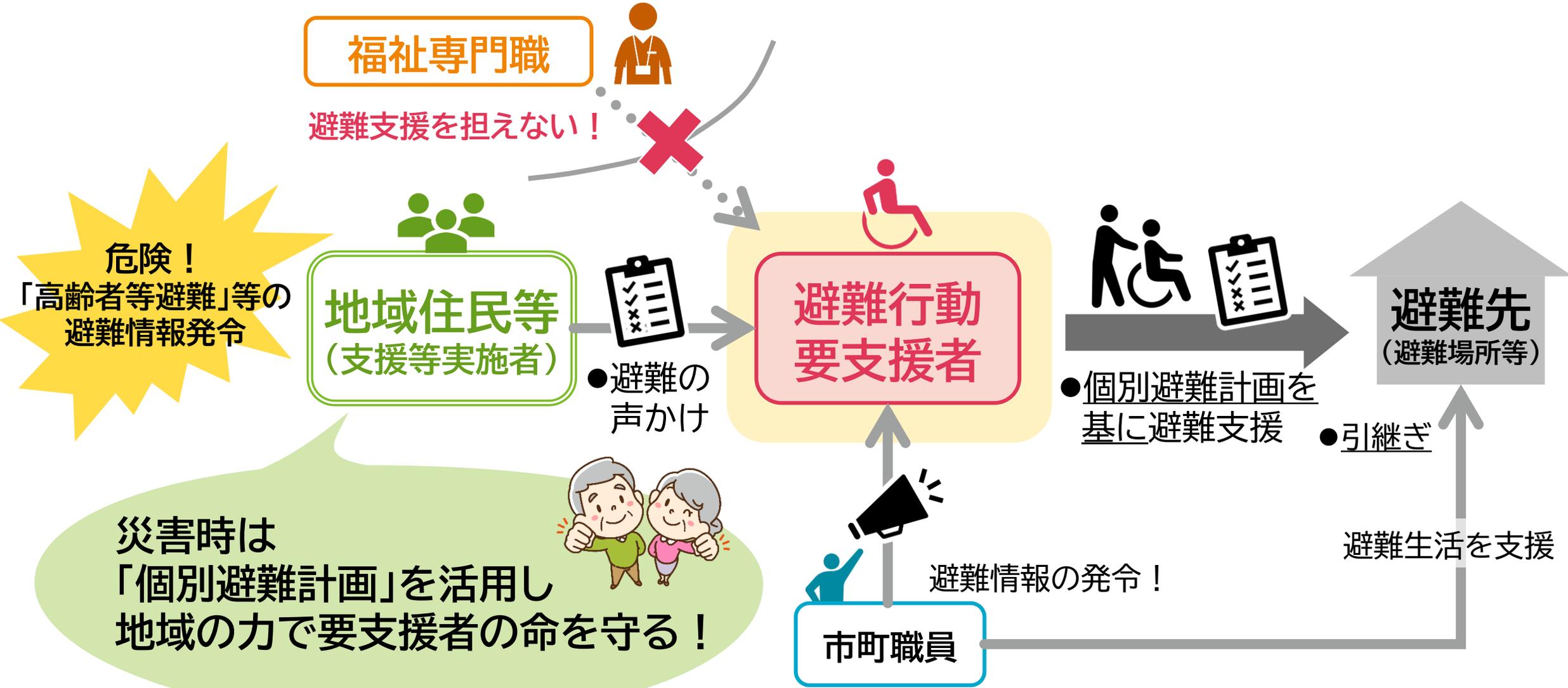
安否確認支援

大丈夫
でしたか？



避難生活支援

災害発生のおそれがある時や災害時の個別避難計画の活用イメージ



【重要確認事項】個別避難計画情報の外部提供

個別避難計画の情報は、**要支援者本人の同意**がある場合のみ、**平常時に支援者間で計画を共有**することができる

※災害時には、本人の同意がなくても提供される場合がある



共有する人や活用方法を
地域からも要支援者本人に
説明できるように
しておこう

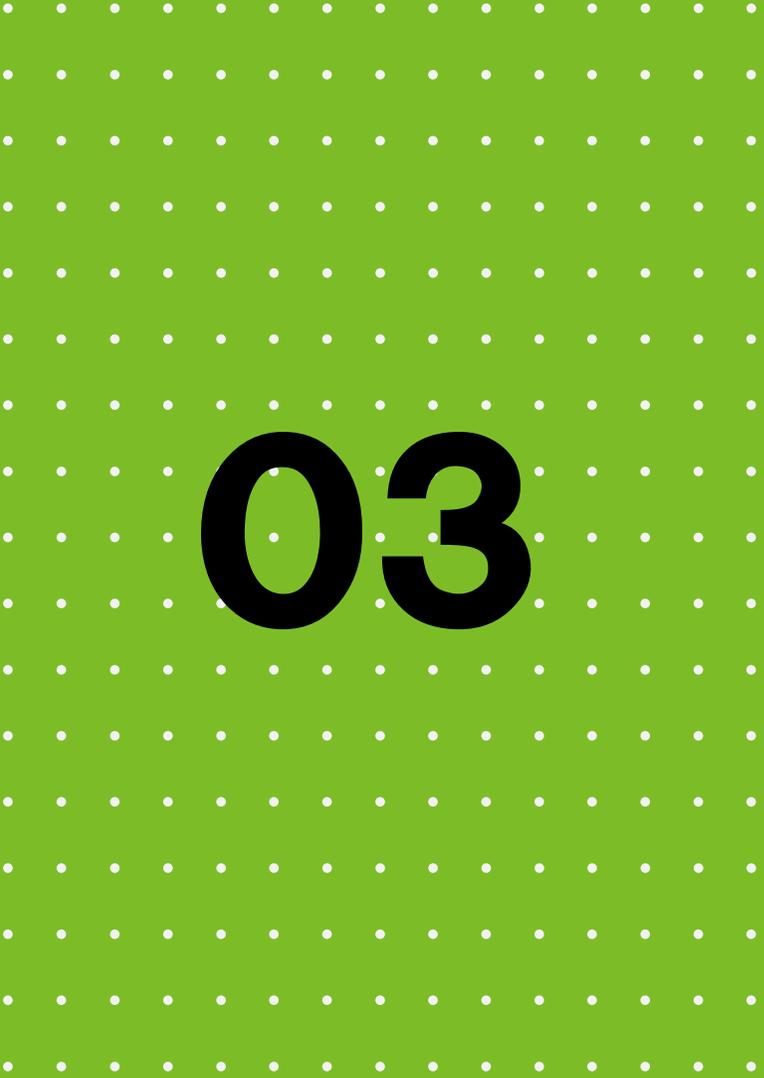
同意したら情報を
誰に共有して
どうやって活用するのか
わかると安心だな



関係者間で事前に計画を共有して
おくことで、いざという時に迷わず避難が実行できる

まとめ

- 個別避難計画は、避難行動要支援者が作成対象者であり、地域のみなさんは「避難支援等実施者」として作成に関わる
- 市町が支援して作成する個別避難計画では、市町が作成の主体となり、地域のみなさん等関係者の協力を得て作成する
- 個別避難計画は、避難支援や避難生活支援に活用される
- 要支援者の同意を得た個別避難計画は平常時の支援準備に活用できる



03

個別避難計画作成への 地域の関わり

**地域のみなさんが作成にどう関わるのか
具体的にみていきましょう**

避難に関する自助力を整理する当事者力アセスメント

◆ 当事者力アセスメントとは

本人や家族、その他の関係者への聞き取りや訪問を通じて、要支援者本人の心身の状況や周囲との関係、備えに対する取組などの情報を収集し、本人の避難に関する自助力(本人の避難能力等)を明らかにする調査

◆ 目的

- 避難に関する自助力(本人の避難能力等)と、支援を必要とすること(自助では不足する部分)を明らかにする
- 本人の防災リテラシーの向上を図る

市町が
「本人情報」
「本人の避難行動」
の情報を収集する

本人をよく知る
地域みなさんに
協力をお願い
することもあります

その時は
協力してください



地域の支援力を整理する地域力アセスメント

◆ 地域力アセスメントとは

自主防災組織、自治会、その他の地域団体等の状況確認や現場調査等を通じて、避難支援等の実施者となる可能性のある地域の人や団体と避難支援等の実施にあたり利用可能な社会資源などの情報を収集し、本人の避難支援等に係る可能性を明らかにする調査

◆ 目的

- 避難行動要支援者の避難支援等に係る地域の支援力を明らかにする

市町が
「避難時に必要な支援」
の情報を収集する

地域の組織等への聞き取り
に協力をお願いします

一緒に
取り組みましょう！



地域力アセスメントでお聞きしたい情報

避難する場所の情報

- ✓ 避難先の候補は？
- ✓ どこを通って避難する？
- ✓ 避難を受け入れてくれる施設はどこ？
- ✓ 避難後生活できそう？ など

避難の支援方法の情報

- ✓ 誰が支援できる？
- ✓ どんな団体がある？
- ✓ 資機材や道具は何が使える？
など

地域の組織等への聞き取りをしながら進めます



みなさんへのお願い

避難支援を実現するためには、
「支援を受ける人」と「支援をする人」がつながる必要がある

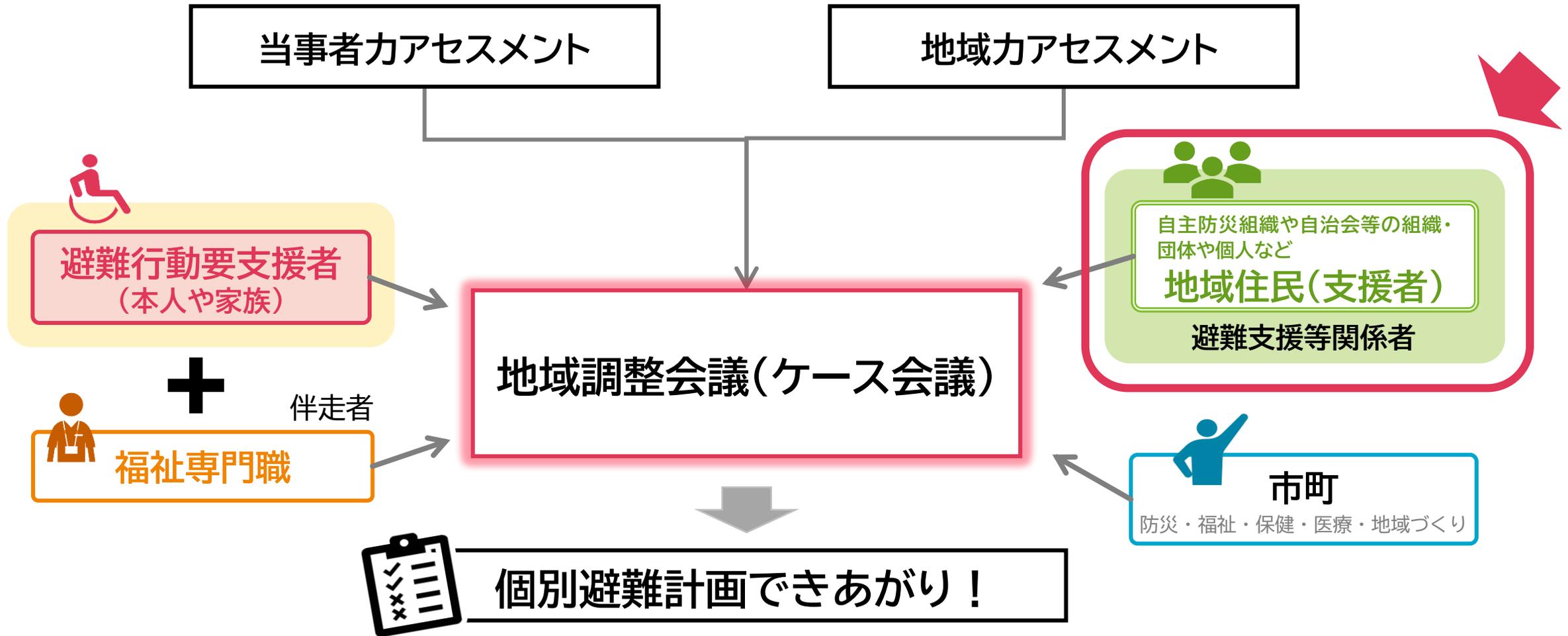


支援者の確保が大きな課題



地域に支援者が増えると、避難行動の意識が高まり
結果的に地域の防災力アップにつながる！

避難支援に関する方針を決める地域調整会議



地域調整会議の内容は「单元2」で学びます

**個別避難計画を作成したら
平常時の取組で
実行性のある支援体制にしましょう**

実効性のある支援体制確立の必要

作成したら終わりではなく、実効性を確保する取組を実施する



自助力の向上



地域の避難支援体制の確保

計画情報の共有

避難訓練の実施

計画の見直し・更新



計画情報の共有

作成した計画を共有して、記載されている事項を確認しましょう！

※市町によって共有される関係者の範囲は変わります！

- 要支援者の心身の状態、支援で留意する事項
- 避難経路、避難場所
- 必要な備品や保管されている場所
- 他の支援者の情報 など



要支援者本人と支援者で読み合わせをしておくと、
見逃しがなく安心です！



避難支援等の実効性確認のための訓練

訓練で、本人の避難行動や、避難支援の内容・方法を確認する

計画どおりに避難できるか
実際にやってみる！

避難に必要なスキル
を身につける！
(誘導や車いすの操作など)



こうすると
上手くいくね！

この点は
改善が必要ね！

危険が迫っている時に、個別避難計画に基づいて
避難行動要支援者の避難支援ができるようになる！

【事例】 実効性の確保に向けた避難訓練の実施（岡山県岡山市）

- 多様な関係者と連携し、避難行動要支援者本人も参加して避難訓練を実施。
- 各地区の課題等を踏まえ「地域の思い」を中心に地域と行政が協働して訓練内容を企画。
- 「まずはやってみることが大切！」という意識を関係者と共有できたことで、難しい課題に対しても前向きに、一体感をもって取り組むことができた。
- 訓練後の振り返りにより、訓練を通じて見えた課題などについて共有・検討し、今後の取組に活用。



出典：岡山市電子町内会『操南学区連合町内会』最終アクセス2023年1月27日 <https://townweb.e-okayamacity.jp/c-souan-r/2021/10/11/%E4%B8%8A%E8%97%A4%E5%B4%8E%E7%94%BA%E5%86%85%E4%BC%9A%E9%81%BF%E9%9B%A3%E8%A8%93%E7%B7%B4%E5%AE%9F%E6%96%BD/>

訓練後のふりかえり

訓練後に、訓練参加者により、主に次の観点からふりかえりを実施する

◆ふりかえりの内容例

- 訓練テーマと訓練方法は適正だったか
- 訓練に応じた行動は実践できたか（本人、避難支援等実施者）
- 計画内容に問題はないか、改善すべき事項はないか
- 今後取り組むべきことはなにか（本人、避難支援等実施者）



訓練をふりかえり、意見を出し合うことで、課題を明確化

計画(Plan)⇒訓練(Do)⇒評価(Check)⇒改善(Act)
PDCAサイクルで実効性を高める！



計画の実行性確保のための取組

変化に合わせた計画内容の修正・更新が必要

◆ 「計画内容の修正・更新」における地域の関わり

- 要支援者の状況に変化
- 支援者自身の状況に変化
- 市町や福祉専門職に協力

日々の見守りの中で
状況の変化を
キャッチすることが
大切！

個別避難計画を地区防災計画等に
位置づけることも
実効性の確保に効果的！

自分が支援できなく
なった場合も
早めに伝えましょう！



個別避難計画を作成した避難行動要支援者の声

避難所に行けることが
分かって良かった

地域の人が気軽に
声をかけてくれるように
なって嬉しかった

個別避難計画を作成することで、
避難場所・避難経路について
改めて確認することができ、
危険個所の把握ができた



避難時の持出品の整理など
「自らできることも意識していきたい」

安心感が高まった

本人にとって、地域のつながりや災害への意識を持つきっかけにもなる

地域で作成する個別避難計画

自力で避難することは難しいけれど、ほんの少しの手助けで避難できる方も多くいらっしゃいます

「ほんの少しの手助け」が必要な方の避難を
地域が中心となって一緒に考えてみてください

荷物を持って玄関まで
出ることはできます



では、早めに声がけ
するので、一緒に
避難しましょう！

支援が必要になった時に、「お願いしやすい地域」にしていきましょう！

まとめ

- 地域のみなさんは、「基本事項の確認（当事者アセスメント、地域力アセスメント）」、「地域調整会議」の各段階において関わる
- 支援する人がいなければ実際の避難はできないため、地域のみなさんが避難支援等実施者として支援することが必要
- 個別避難計画を実行性のある計画にするためには、自助力の向上、計画情報の共有、訓練の実施、計画の見直し・更新を行う平常時の地域の取組が欠かせない